OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	地域的標準語の語法上の特徴 ： 「広州普通話」を例として
Author(s)	陳, 於華
Citation	阪大日本語研究. 2001, 13, p. 73-88
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/6464
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大日本語研究』13（2001）

地域的標準語の語法上の特徴
－「広州普通話」を例として－

Grammatical features of regional varieties of standard language
－with specific reference to Guangzhou Putonghua－

陳　於華
CHEN Yuhua

キーワード：標準語、地域方言、言語接触、地域的変種、語法

【要旨】

地域的標準語とは標準語が地域社会に普及していく過程に形成された地域的変種のことを言う。地域的標準語は多くの国・地域で注目されているが、その言語的特徴はいまだ解明されていない。本稿では、標準中国語（普通話）の地域的変種の１つである「広州普通話」を例とし、その語法上の特徴について、次の６点を指摘している。１）同形語の方言的な意味・用法　２）方言の逐語訳　３）方言の統語法の使用　４）方言的なアスペクト表現　５）方言の終助詞の使用　６）方言の感動詞の使用。６つの点で、共通して地域方言の干渉が見られる。これらの特徴は、言語によって出現の度合いや具体的な現れ方が異なるものの、多くの言語に当てはまる普遍的なものであると思われる。

１．はじめに

ある言語の標準語（標準変種）が地域社会に普及していく過程に地域的変種が形成されるという現象が、多くの国・地域で報告されている。日本では、話者が標準語のつもりで話している地域性のある言葉を「各地共通語」（柴田 1958）、「地域共通語」（柴田 1965）、「疑似（クァージ）標準語」（真田 1989、1997）などと呼んでいる。そして、各地で行われている「地域共通語」「疑似標準語」を一つの言語変種（コード）として研究すべきだという主張も見られる（ロング 1993）が、まだ個別の言語形式、部分体系として扱われているのが現状である。

一方、中国では、標準語（普通話）として話されているが、方言的特徴が見られる言葉を「地方普通話」と名付けている（陳建民・陳章太 1988、陳恩泉 1992、姚佑椿 1989 など）。「地方普通話」は 80 年代末から注目され、その存在の正当性がある程度認められるようになった。陳建民・陳章太（1988）と陳恩泉（1992）では、「地方普通話」は全国各地にあ

まねく見られ、長期的に存在するものであると考え、姚佑椿（1989）では、「地方普通話」は「普通話」の主要なる存在形式であると指摘している。しかし、これまでの「地方普通話」に関する研究はほとんど理論や方法論的問題の検討にとどまり、具体的な調査研究はまだ少ない。[*1]

標準語の地域的変種は標準語と地域方言が接触して生じた言語現象であるが、言語接触論的観点から考えると、ある言語の標準語が地域社会に普及していくと、必ず地域的な変種が形成されると言える。これらの地域的変種は、音声、語彙、語法など多くの言語事象に方言的な特徴が見られ、ある程度標準語の規範からはずれているが、言語共同体の中では共通語として機能している。地域社会の話者の大半がこのような地域的変種を標準語として話しているという現状から考えると、標準語の地域的変種は地域社会における標準語の存在形式であると言えよう。本稿では、標準語の地域的変種を地域的標準語と称することにする。

しかしながら、標準語と方言の類似性（距離）は言語によって異なり、標準語と方言の距離が近い言語では、両者の間に位置する地域的標準語の境目がはっきりしない場合がある。中国語では、標準語と方言（方言間）の差が大きく、特に語音体系の運用から話者の言語コードを判断することができるため、地域的標準語の研究は、他の言語に対して問題を提起できる位置にあると思われる。本稿では、広東省広州市で用いられている「普通話」―「広州普通話」を例に、地域的標準語の語法上の特徴を明らかにしたい。

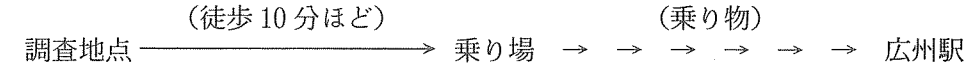
2．用例収集の方法

地域的標準語は主として話し言葉として現れるため、その実態を調べるためには談話資料を収集しなければならない。筆者は、1996年8月から9月にかけて、福州市、広州市、及び香港における標準語の普及度を調べるために、速匿観察法（rapid and anonymous observation）による現地調査を実施した（陳於華1997、1999を参照）。調査方法は具体的には次の通りである。

現地で調査者（筆者）は地元の住民がよく出入りする市街へ出かけ、インフォーマントにより長く、より複雑な発話を求めるために、目標となる場所からかなり離れた地点に立ち、そばを通る人に標準語で声をかけ、目標への道順を聞く。そして、それに対するインフォーマントの対応言語を録音する。

「聞き手」がよそから来た旅行者であることを暗示するために、広州市の出入り口である「広州火车站」（広州駅）を目標地点とした。また、ある程度複雑な言語表現を収集す

るために、調査地点は、目標地点へ行くには交通機関の利用が必要な場所、さらに乗り場から徒歩10分ほど離れた地点を選ぶことにした。調査地点を概念図で表すと、次のようになる。



調査は10代～60代と判断される男女、計128人に対して行った。録音会話は、調査地点から広州駅への「道教え」がほとんどであるが、調査者が実際に行きたかった場所への「道教え」や乗り場まで連れていく途中の会話もいくつか含まれている。本稿で用いられる用例はこの録音会話を文字化した談話資料に基づいている。

地域的標準語の用例収集に外来者への「道教え」場面で収集した談話資料を利用した理由は、次の3点が挙げられる。

その1、外来者への「道教え」場面は日常生活でよくあるインターアクション場面である。中国の場合、方言間ではほとんど理解し得ないため、外来者とのインターアクション場面においては、全国共通語として機能する標準語を用いなければコミュニケーションはとれない。従って、この場面において標準語コードを用いるのは、特に言語事情の複雑な南方方言区の人にとっては常識とも言える。実際に、インフォーマントのほとんどが標準語コードを用いて対応したのである（方言コードとの併用も見られた）。

その2、この場面で用いられる標準語コードのスタイルは、会議での発言ほどフォーマルでなく、家庭の中での雑談ほどカジュアルでもなく、中間的なものと言える。その言語的機能は主として外来者とのコミュニケーションにあり、標準語の「機能的基準」（姚佑椿1989）に達しているため、それを当該地域の地域的標準語の代表的形式と見なすことができる。

その3、数多くの人の地域的標準語を分析し、共通した特徴を抽出することができる。

3．語法上の特徴

周知のように、広州市で話される広州語は粤方言（広東語）に属し、北方方言を基礎方言とする標準語との差が大きい。語法においては、同形語の意味・用法の違い、統語法の部分的差異、アスペクト表現形式の違いなど、相違点が多い。また、広東語には独特な終助詞が多数あり、頻繁に用いられるのが特徴的である。

3．1．同形語の方言的な意味・用法

標準語と広東語では同形語が多数あるが、中には意味、または用法が少し異なるものがある。その場合、両者の相違に気づかず、標準語を話すときにも方言的な意味・用法で用いられる傾向が見られる。

(1) 直**去**，就到了。
（まっすぐに行けば、すぐです。）
(2) 到诶，江南西啊。这里一直**去**。
（えーっと、江南西へ行ってください。ここからまっすぐに行ってください。）
(3) 诶，一直**去**，**去**到诶下面有一个那个红绿灯的路口，你再问一下人家。
（えーっと、まっすぐに行って、この先の信号のあるところまで行って、また人に聞いてください。）

「去」（行く）は所在地から別の場所へ移動する意味で「来」（来る）と対立する概念を表すが、移動の手段は問題にされない。ところが、歩行者に道を教える場合など、移動の手段が明白な場合、標準語では「一直走」（まっすぐに歩いていってください）というように、移動の手段が明示され、より具体性を持つ「走」（歩く）を用いなければならない。しかし、広東語ではこの制約を受けず、この場合、「去」を用いることができる。上の用例の用法は広東語の「去」の用法の転移によるものだと考えられる。

(4) 你现在**出**那个路口，再，再往那边拐的话，那多公共汽车。
（今あの角へ行って、それから、それからあちらへ曲がれば、バスがたくさんあります。）
(5) 啊，一直去。一直**出**那个，好像是什么，那个批发市，批发市场。
（ああ、まっすぐに行ってください。まっすぐにあの、なんとか、あの卸市、卸市場へ行ってください。）
(6) 打的士**出**去啦。这边去，过人民桥。
（タクシーで行ってください。こちらから行って、人民橋を渡ってください。）

「出」（出る）は中から外へ移動する意味で「进」「入」（入る）と対立する概念を表すが、標準語では、目的地を表す言葉は普通後接しない。しかし、用例の「出」は「ある場所へ向かって進んでいく」という意味に用いられ、目的地を表す言葉が後接する。標準語の「出」はこのような意味・用法は持たないが、広東語の「出」はこの意味・用法でも用

いられる。これは、方言での意味・用法が転移したもう一つの例である。

(7) 那里走**过**一点有个车站。
（あそこからもう少し行けばバス停があります。）
(8) 这里一**过**就是汽车站了。
（ここから少し行くとバス停があります。）
(9) 你**过**对面那个站看看。
（向こうのバス停に行ってみてください。）
(10) **过**那边，坐船**过**那边。
（向こうへ行ってください。船に乗って向こうへ行ってください。）

「过」はある地点から他の地点へ移動するという意味を表す場合、標準語では「来」（来る）か「去」（行く）と結合して用いなければならないが、広東語では単独でも用いられる。用例の「过」はすべて広東語の用法である。

(11) 这**上**去转左，然后再**上**。
（ここから上がっていって左へ曲がってください。それからまた上がっていってください。）
(12) 你这里一**下**呢，就是汽车站了。
（ここから下りていくと、バス停があります。）
(13) 从这里**下**去。过一点就有了，有坐了。
（ここから下りていってください。少し行けばあります、バスがあります。）
(14) 这里**上**去，然后转，转这边。诶，再走到**上面**呢，有一个路口啊。
（ここから上がっていって、それからこちらへ曲がって、曲がってください。えーっと、そこからまっすぐに行くと、角があります。）
(15) 一直走。过了马路往**下面**走，就什么车都有了。
（まっすぐに行ってください。道路を渡ってまっすぐに行けば、バスがたくさんあります。）
(16) 这里，这里就有。**上面**也有，**下面**也有。
（この辺、この辺にあります。こちらにもあるし、あちらにもあります。）

談話を収集した場所の周りに坂道がなかったが、「上面」（上）「下面」（下）「上」（上が

る)「下」(下りる)を用いた用例が多数見られた。筆者の観察によれば、「上面」は話し手が向かっている方向を意味し、「下面」は相手が向かっている方向を表す。また、これと対応して、話し手の向かっている方向へ進んでいくことを「上(去)」(上がっていく)、相手の向かっている方向へ進んでいくことを「下(去)」(下りていく)と表現する。標準語では、「上面」「下面」は上下の方角を表し、「上」「下」は上または下に向かって移動するという意味に用いられるが、広東語ではそれぞれ上述の意味に用いることが出来る。上の用例は広東語からの転移によるものである。

(17) 火车站啊？我**都**不清楚。
(汽車の駅ですか。私も分からないんです。)
(18) 我**都**不很知道。你看一看啊。
(私もよく分からないんです。自分で探してみてください。)
(19) {要走很远吗？} **都**要走十来，十分钟啊，**都**要。
({遠いですか。} 少なくとも十、十分はかかりますよ、少なくとも。)
({ } 内は聞き手の発話である。以下同様。)

「都」は、標準語では、主語が複数の場合は「みな」「すべて」の意味であり、主語が単数、或いは単複の区別がつかない場合は強調の働きをする。広東語では、前者の場合は標準語と意味が同じであるが、後者の場合、強調の働き以外に、「…も」の意味にも用いられる(標準語の「也」に相当する)。また、(19)のように、「少なくとも」という意味を表すこともある。用例の「都」はいずれも広東語の意味に用いられている。

(20) 一直去。**一路**走啊。向前**一路**走。再往左拐。
(まっすぐに行ってください。まっすぐに行くんですよ。まっすぐに行って、それから左へ曲がってください。)
(21) **一路**走上。拐那边。
(まっすぐに行ってください。あちらへ曲がってください。)

「一路」は、副詞として用いる場合、標準語では「一緒に」の意味であるが、広東語では「まっすぐに」「絶え間なく」という意味に用いる。用例の「一路」は広東語の意味「まっすぐに」を表す。

㉒ 不远的，**好**近的。
（遠くないです。近いです。）
㉓ 你坐车啦。还**好**远啊。
（バスに乗ってください。まだまだ遠いですよ。）

形容詞または動詞の前に用いる「好」は、標準語では程度が大きいことを表し、詠嘆の語気（話し手の表現意図や情意を示す語調）がある。用例の「好」は詠嘆の語気はまったくなく、ただ程度が大きいことを表している。広東語の「好」（とても）と同様な用法で用いられている。

3．2．方言の逐語訳

同じ意味を表すのに、標準語と方言では違う表現形式を用いることがある。その場合、方言の表現形式を標準語の単語に逐語的に翻訳することがある。

㉔ 车里面有，有些工人，你**说给他们听**，就……
（バスの中に乗務員がいる、いるから、彼らに言えば……）
㉕ 车站，车站，你，哎呀，现在我很难**讲给你听**。很远的。
（バス停、バス停、えーっと、今説明するのは難しいです。遠いですよ。）
㉖ 你，诶，**走前一点**。那里有车站去火车站的。
（えーっと、もう少し前へ行ってください。そこに汽車の駅へ行くバスがあります。）
㉗ 如果你不大清楚，你再**走前点**问问。
（もし分からなければ、もう少し前へ行って聞いてみてください。）
㉘ 她**不会听**普通话。
（彼女は標準語は分からないんです。）

「说给他们听」（彼らに言う）と「讲给你听」（あなたに教える）は広東語の「话／讲俾～听」（～に言う／教える）の標準語への逐語訳である。標準語では「告诉他们」「告诉你」のように、「動詞＋目的語」の構文を用いる。また、「走前一点」と「走前点」はいずれも「もう少し前へ行って下さい」という意味であるが、広東語の「行前啲」の標準語への逐語訳である。標準語で言えば、「前置詞フレーズ＋移動動詞」の構文を用いて、「往前走一点儿」というべきである。さらに、「不会听」（聴解できない）は広東語の「唔识听」の逐語訳であり、標準語では「听不懂」（聞いて理解できない）というように、補語の表現を

用いる。

3．3．方言の統語法の使用

広東語の統語法は基本的に標準語と同じく、SVOであり、修飾語が被修飾語の前に置かれるのが一般的であるが、被修飾語の後や文末に置く副詞がいくつかあり、移動動詞の後に目的語が後接するなど、語順が異なるものもある。

㉙ 诶，**转左**，再**转右**。
（えーっと、左へ曲がって、それから右へ曲がってください。）
㉚ 这里前边十字路口**拐左**。
（前の十字路を左へ曲がってください。）
㉛ **走这边这个路口**，**转这边**啊。
（こちらの角へ行って、こちらへ曲がってください。）

「转左」（左へ曲がる）、「转右」（右へ曲がる）、「拐左」（左へ曲がる）、「转这边」（こちらへ曲がる）、「走这边这个路口」（こちらの角へ行く）はいずれも「移動動詞＋目的語」の構文であり、広東語式の表現形式となっている。標準語では「前置詞フレーズ＋移動動詞」の構文を用いて、「往左转」「往右转」「往左拐」「往这边转」「往这边这个路口走」と言うのが普通である。

㉜ 这里拐过去，在**对面马路**。
（ここから曲がっていってください。道路の向かい側にあります。）
㉝ 前面过一点，在**对面马路**那里。
（もう少し前へ行ってください。道路の向かい側にあります。）
㉞ 坐船可以。坐船到**对面海**。
（船に乗ってもいいです。船に乗って川の向こうに行きます。）

「对面马路」は「道路の向かい側」、「对面海*2」は「川の向こう」という意味であるが、標準語では「马路对面」「河对面」と語順を変えなければならない。これは単に語順の違いというより、そもそも事物の表現の仕方（或いは認知の仕方）が異なると言ったほうが妥当かも知れない。つまり、この場合、標準語では、日本語と同じように、道路や川を基準にして「道路／川の向かい側」と言うが、用例では話者を基準にして「（自分の）向こ

う側にある道路／川の側」と表現するわけである。広東語でも同じような言い方をするので、この表現は方言からの転移だと思われる。

3．4．方言的なアスペクト表現

動詞にアスペクト助詞・助動詞を後接する形で動作の様々な相を表すのが標準語と広東語のアスペクト表現の共通点であるが、具体的な表現形式が異なる場合が多い。

㉟ 就是那个车牌啊，上面**有**写。
（バスの表示ですね。そこに書いてあります。）
㊱ 你看那个牌子。那里**有**写**住**的 la ㄧ。
（その表示を見てください。そこに書いてあるんです。）
㊲ 它**有**写**着**到火车站的。好多都**有**。
（汽車の駅と書いてあるんです。多くのバスに書いてあります。）

「有」は標準語では動詞として用い、存在や所有を表す。この用法は広東語にもある。しかし、広東語の「有」は標準語にはない機能を有している。それは動詞（または動詞句）の前に用いられ、動作行為の実行、もしくは実行後の結果が残留している状態を表す。後者の場合、㊱のように、広東語の持続相の標識とされる「住」と同時に用いることができる。標準語では、動詞にアスペクト助詞「着」を後接して動作・状態の持続を表す。㉟㊱のアスペクト表現は完全に広東語式であるのに対して、㊲のは広東語と標準語の融合である。

3．5．方言の終助詞の使用

広東語に数多くの終助詞があり、頻繁に用いられることは上述したとおりであるが、広州の人は標準語を話すときにも実に多くの終助詞を用いている。これらの終助詞の内、標準語に無いもの、或いは似て非なるものがある。

3．5．1．a（啊）

標準語でも広東語でも文末に「a」を用いて、疑問、要求、催促、弁解、説明、強調、感嘆など、様々な語気を表すことができる。標準語と広東語の「a」の区別は音声にある。標準語の「a」はいずれも軽声で発音するが、広東語の「a」は明瞭なプロミネンスがあり、トーンの高さ（声調）でそれぞれの機能を区別する（これは広東語の終助詞の一般的

な特徴でもある)。また、標準語の「a」は前の音節の影響を受けて、いくつかの異なる音声形式となって現れるのに対して、広東語の「a」は前の音節とほとんど関係なく、ほとんどの場合、「a」としか発音しない(前の音節の韻尾がm／nの場合、ma／naと発音することがある)。さて、広州の人は標準語を話すとき、どちらの「a」を用いるのであろうか。

(38) 你刚来广州a↓？〔对。〕
(広州に来たばかりですか。〔はい。〕)
(39) 来探亲na↓？〔对。〕
(親族訪問に来たんですか。〔はい。〕)
(40) 〔请问到火车站去坐什么车？〕到火车站a↓？火车站，那边。
(〔汽車の駅へはどのバスに乗ればいいですか。〕汽車の駅へ行くんですか。汽車の駅は、あちら。)
(41) 〔我想问一下到广州火车站去坐什么车？〕广州火车站na↓？很多专线车去a┤。
(〔ちょっとおたずねしたいんですが、広州駅へはどのバスに乗ればいいですか。〕広州駅ですか。リムジンバスがたくさんありますよ。)
(42) 走那边吧。那边近一些a┤。
(あちらへ行ってください。あちらの方が少し近いですよ。)
(43) 这里走a┤。要过那个马路a┤，过那个邮局a┤。
(こちらから行くんです。道路を渡ってね、郵便局を通るんですよ。)
(44) 很远a┤。你坐汽车去a┐。上面有汽车站啦。
(遠いですよ。バスで行ってください。この先にバス停があるから。)
(45) 坐五〇三a┐。〔五〇三。〕你看一看a┐。
(503番にのってください。〔503。〕確かめてくださいね。)

(38)～(41)の「a↓」はいずれも疑問を表すが、(38)(39)は相手の肯定的返事を期待する疑問を示すのに対して、(40)と(41)の前の「a↓」は相手の言葉を引用してもう一度問いかけ、念を押すものであり、相手の返事は必ずしも必要としない。いずれも低いトーンで発音されている。また、標準語では、真偽疑問文には疑問を表す終助詞「吗」(ma)が多用されるが、広州では「吗」の用例はまったく見られず、いずれの疑問文にももっぱら「a」を用いる。

(41)～(44)の「a┤」は中高のトーンで発音され、説明や相手に言い聞かせるような語気

を表すが、この場合、標準語では特に終助詞を用いる必要はない。

(44)(45)の「a↑」は高いトーンで発音され、要求、進言などの語気を示している。

このように、広州で収集した「a」の用例はすべて明瞭なプロミネンスがあり、トーンの高さで機能の使い分けをしている。このことから、広州の人は標準語コードの中で広東語の「a」を用いているということが分かる。

3．5．2．la（啦・喇）

標準語にも広東語にも「la」があるが、標準語の「la」は助詞「le」（了）と上述の「a」（啊）の合音であり、平叙文の文末に用いて、動作が完了したこと、状況が変化したことに対して、感嘆の気持ちを添える。命令文においては禁止を表すことが多い。一方、広東語の「la」は独立した終助詞であり、高いトーンで発音するとき（啦）は要請、進言、勧誘、推量、説明などの語気を表し、中高のトーンで発音される（喇）と、完了の語気や言い含めなどを示す。

(46) 你到那里再问一问人 la↑。
（そこに着いたらまた人に聞いてください。）

(47) 这，这里没什么车好坐。坐专线车 la↑。
（この、この辺あまりバスがないんです。リムジンバスに乗ってください。）

(48) 你，这没有公共汽车到，直接到火车站的。你坐，出租车去 la↑。〔坐出租车？〕啊，你方便也好一点 la↑。
（この辺、直接汽車の駅へ行くバスはないんです。タクシーで行ってください。〔タクシーで？〕ええ、その方が便利でいいから。）

(49) 过了海，海珠桥，你认得 la↑。
（海、海珠橋を渡ったら、分かるでしょう。）

(50) 诶，过到那个马路，诶往左拐，有个车站，很多车到火车站的 la→。
（えーっと、大通りまで行って、左へ曲がれば、バス停があります。汽車の駅まで行くバスがたくさんあります。）

(51) 你这样一直这条路啊，一拐，向左拐啊，有很多车站的 la→。
（この道をまっすぐに行ってね、曲がると、左へ曲がりますね、バス停がたくさんあります。）

(46)(47)と(48)の前の「la↑」は要請・進言の語気を表すが、(48)の後の「la↑」は理由を

説明するのに用いられている。また、㊾の「la↑」は確認要求を示す。標準語の「la」にはこれらの働きはなく、いずれも広東語の「la↑」に相当する。

㊿51及び前掲の㊱の「la↓」は、いずれも助詞「的」に後接して肯定的な語気を表す。標準語の「la」にはこういう用法がないので、それは、肯定的な語気を示す広東語の終助詞「㗎喇」[kala]の標準語への逐語訳「的了」[tɤlə]のなまった発音と考えられる。

3．5．3．lo（咯）

「lo」は標準語にも広東語にもある終助詞である。標準語では「当然だ」「いうまでもない」（赵1926）というニュアンスを表すが、広東語では、高いトーンで発音するときは説明や相手の話を肯定する語気、または相手の意向に無理に同意することを示し、中高のトーンで発音されると、誘いかけ、或いは感嘆を表す。

52〔那你是做什么工作的？〕在保险公司lo↑。
（〔どんなお仕事をしているんですか。〕保険会社で働いています。）
53 在这里你坐公共汽车lo↑。
（ここだったらバスに乗るしかないんですね。）
54 我们带你去lo↑。
（連れていってあげましょうか。）
55 哎哟，惨lo↓。
（あらまあ、かわいそうに。）

52 53の「lo↑」は相手が求めている情報を与える〈説明〉の語気を表すが、標準語では特に終助詞を用いる必要はない。54は道順をうまく説明できないというコンテクストで用い、「lo↑」は仕方なく相手に合わせる（連れていく）というニュアンスを表す。また、55の「lo↓」は感嘆を示すものである。いずれも広東語の「lo」に相当し、標準語の「lo」と無関係である。

3．5．4．wo（喎）

標準語には「wo」という終助詞が無いが、広東語にはある。広東語の「wo」は、平調で発音されるときは、自分の判断や意見を相手に言い聞かせたり、相手にとって予想外であろうことを知らせたりするような語気を示し、上昇調で発音されると、伝聞を表す。広州の人は標準語を話すときにも「wo」を用いる。

(56) 广州火车站，你要坐，过这个河对面，坐汽车到火车站wo┤。
（広州駅は、川の向こうに渡って、バスに乗って駅へ行かなければならないんですよ。）
(57) 这个车，这个车，那边不知有没有站wo┤。可能没站wo┤。
（バスは、バスは、あそこにバス停があるかどうか分からないんですよ。無いかもしれませんよ。）
(58) A：搭车去 㗎嘛。{什么？} 搭六号车咪去到 啰。{你可以用普通话跟我讲吗？} 搭……
B：乘车可以去wo┤。
（A：バスで行くんですよ。{何？} 6番のバスに乗れば行けますよ。{標準語で言ってもらえますか。} えーっと……
B：バスに乗れば行けるって。）

（下線部は広東語による発話である。）

(56) の「wo┤」は自分の判断や意見を相手に言い聞かせるような語気を表し、(57) の「wo┤」は予想外のことがあるかも知れないことを相手に知らせるのに用いられている。いずれも平調で発音されている。(58) の「wo┤」は上昇調で発音され、Aが広東語で言ったことを、Bが標準語を用いて聞き手に伝える場合である。「Aが言ったのは」という意味を表す。広東語の「wo」をそのまま用いている。

3．6．方言の感動詞の使用

3．6．1．na／la（喺）

「na／la」（ほら）は広東語の感動詞であり、相手の注意を引くのに用いる。標準語に無いものである。しかし、広州の人は標準語コードにも用いる。

(59) na┘，这里一直去，一直去到路口，你，你再问人哪。
（ほら、ここからまっすぐに行って、角までまっすぐに行って、また人に聞いてください。）
(60) na┘，如果去天河火车站就这一路车就可以了。
（ほら、天河駅へ行くんだったらこのバスで行けます。）

いずれも相手の注意を引くために「na」を用いた例であり、発音は広東語のままである（na／la┘）。標準語ではこれに相当する感動詞が無く、相手の注意を促すには、この場合、「你看／瞧」（ご覧なさい）と言うのである。しかし、広州では「你看／瞧」を用い

た例は全く見られない。

3．6．2．wa（哗）

「wa」（まあ、ワァー）は広東語の感動詞であり、驚きを表す。標準語には無いものである。

(61) **wa↓**，很远 wo┤。
（ワァー、遠いですよ。）
(62) **wa↓**，这里去火车站很远的。
（ワァー、ここから汽車の駅へ行くのは遠いですよ。）

用例の「wa」はいずれも道を聞く人の行き先を聞いたとたんに発する語であり、驚嘆の意を表す。発音は広東語のままである（wa↓）。標準語では、この場合、「aiya」（哎呀）という感動詞を用いる。

4．おわりに

以上、「広州普通話」を例に、標準語の地域的変種の語法上の特徴をまとめてみた。無論、これらの特徴は「広州普通話」に限らず、「福州普通話」「香港普通話」、及び「台湾国語」（Taiwan Mandarin）「シンガポール華語」（Singapore Mandarin）など中国語圏の地域的標準語に見つけることが出来ると思われる。もっとも、これらの特徴の出現の度合いと具体的な現れ方は地域によって異なるが、「広州普通話」について言えば、方言の終助詞の多用が最も特徴的である。

また、日本語の場合でも、地域的標準語について、同形語の方言的な意味・用法や方言的なアスペクト表現などが報告されている。これらの特徴はある特定の言語のみに見られる個別的な現象ではなく、多くの言語に当てはまる普遍的なものであろう。無論、地域的標準語の特徴は語法面のみならず、音声、語彙などにも現れる。各地の地域的標準語の実態の解明は今後の調査研究に期待したい。

【注】

＊1．陈亚川（1987）、姚佑椿（1988）はそれぞれ閩南普通話と上海普通話の語音上の特徴を概観している。陈松岑（1990）は紹興普通話の語音上の特徴を詳しく調べている。また、陳於華

（1999）では福州普通話、広州普通話、香港普通話の語彙・語法上の特徴について基礎的研究を行った。

＊2．広州の人は「川を渡る」ことを広東語で言う場合は「過海」（海を渡る）と言うが、これについては、香港島と九龍半島の間を行き来して生活している香港の人にとって、「過海」という言葉は日常用語であり、それを広州まで持ってきて、川を渡る意味にも用いるようになったのだとされている（袁1983）。広州の人は標準語を話すときもこの表現を用いる。

【参考文献】

井上史雄（1983）「ジュニア言語学　気づかない方言」『言語』6月号
井上史雄（1986）「方言」『日本大百科全書』小学館
沖裕子（1991）「気づかれにくい方言－アスペクト形式『～かける』の意味とその東西差－」『日本方言研究会　第53回　研究発表会発表原稿集』
沖裕子（1992）「気づかれにくい方言」『言語』11月号
真田信治（1989）「方言と言語地理学」『講座日本語と日本語教育11言語学要説（上）』明治書院
真田信治（1997）「話しことばの社会的多様性」『日本語学』16－5
篠崎晃一（1996）「気づかない方言と新しい地域差」『方言の現在』明治書院
柴田武（1958）『日本の方言』岩波新書
柴田武（1965）「方言の消長」『日本語の歴史6　新しい国語への歩み』平凡社
渋谷勝己（1989）「方言の将来」『日本語百科大事典』大修館書店
ダニエル・ロング（1993）「疑似標準語と地方共通語」『大阪樟蔭女子大学論集』30
陳於華（1997）「香港における『普通話』の普及度とその運用実態－返還直前のフィールドワークから」－『待兼山論叢』第31号
陳於華（1999）『地域社会の標準語化に関する研究－南中国と香港をフィールドとして－』（大阪大学博士学位論文）
馬瀬良雄（1971）「ことばはどのように変わるでしょう」『信州の方言』第一法規
刘月华・潘文娱・故韡（1996）『現代中国語文法総覧』くろしお出版（相原茂監訳）
陈松岑（1990）绍兴市城区普通话的社会分布及其发展趋势《语文建设》1990年第1期
陈恩泉（1992）论双语制语境下普通话的两个模式《双语双方言（二）》香港彩虹出版社
陈亚川（1987）闽南口音普通话说略《语言教学与研究》1987年第4期
陈亚川（1991）"地方普通话"的性质特征及其他《世界汉语教学》1991年第1期
陈建民・陈章太（1988）从我国语言实际出发研究社会语言学《中国语文》1988年第2期
陈重瑜（1986）新加坡华语语法特征《语言研究》第1期（総第10期）
仇志群・范登堡（1994）台湾语言现状的初步研究《中国语文》1994年第4期
储诚志（1994）语气词语气意义的分析问题－以"啊"为例《语言教学与研究》1994年第4期
邓少君（1991）广州方言常见的语气词《方言》1991年第2期
胡明扬（1981）北京话的语气助词和叹词 上《中国语文》1981年第5期
胡明扬（1981）北京话的语气助词和叹词 下《中国语文》1981年第6期

黄国营（1988）台湾当代小说的词汇语法特点《中国语文》1988 年第 3 期
吴英成（1991）从新加坡华语句法实况调查讨论华语句法规范化问题《语文建设通讯》第 34 期
姚佑椿（1988）上海口音的普通话《语言教学与研究》1988 年第 4 期
姚佑椿（1989）应该开展对 "地方普通话" 的研究《语文建设》1989 年第 3 期
袁家骅 等（1983）《汉语方言概要　第 2 版》文字改革出版社
张楚浩（1988）广州话对新加坡华语的影响《第一届国际粤方言研讨会论文集》现代教育研究社
赵元任（1926）北京助词《方言》1992 年第 2 期

ちん　おか（関西大学非常勤講師）